

地域連携についての講演

講演① 名和田是彦氏 法政大学法学部 教授

「条例を活かして町会活動の新時代を」

(P 1 ～ 6)



講演② 山田和男氏 新宿区町会連合会 副会長
北新宿二丁目町会 会長

「次世代へのタスキ～地域連携で未来へつなぐ

絆づくり～」

(P 7 ～ 1 5)



講演③ 御所窪和子氏 市谷台町町会 会長

「シン・共助のカタチ～地域一体で取り組む

未来に繋げる防災力向上～」

(P 1 6 ～ 2 3)



条例を活かして町会・自治会活動の新時代を

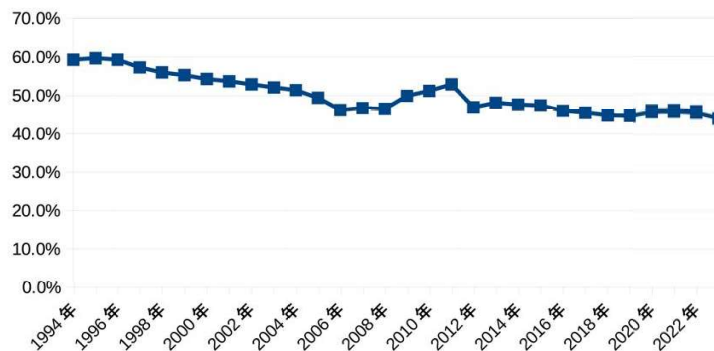
2025年3月22日
新宿区未来につなぐ町会・自治会ささえあい条例シンポジウム
名和田是彦(法政大学)

1

1. 新宿区の町会・自治会は頑張っている

- 新宿区の町会・自治会の加入率の推移のグラフである。
- この間、人口と世帯数は一貫して増加しているが、同時に会員世帯も増えており、加入率はなんとか4割台半ばで踏みとどまっている。
- 新しく会員を獲得し続けていくだけの活力を持っているのである。
- 他の多くの都市自治体では、加入率の低下に歯止めがかかっていない。

新宿区の町会・自治会加入率の経年変化



2

2. 新条例の意義

- 新宿区として町会・自治会とともに地域コミュニティを発展させていく姿勢を明示した。
- 町会・自治会が活動しやすい支援を区行政が計画的に行なっていくことを定めた。
- 新規開発マンション等との協議の窓口が明確になる仕組みを導入した。

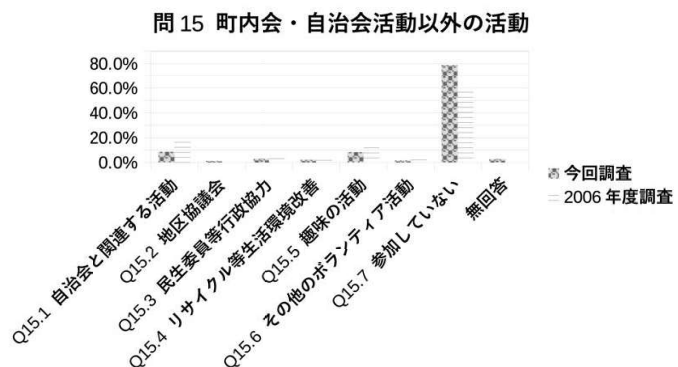
3

3. 条例の背景：地域力の低下を示唆するデータ

■今年度、町田市からの委託により、地域コミュニティの調査を行なった。2006年度にも同様の調査があり、それと比較するといろいろなことがわかる。その中からいくつか紹介する。

■町会・自治会以外の活動をしている人は、どの活動分野でも減っている。(町会活動そのものは、あとで)

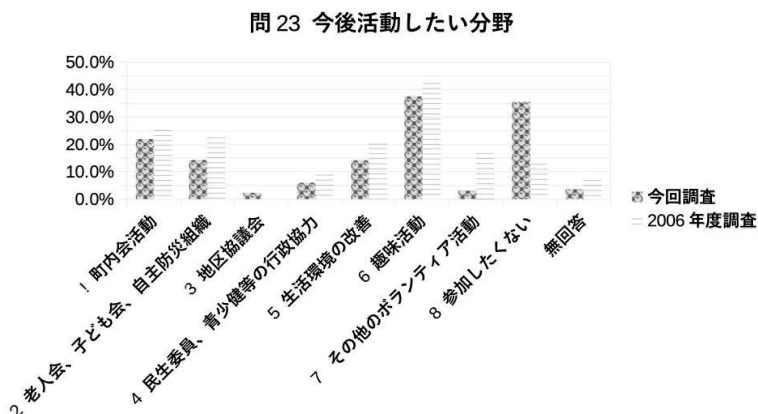
■何らの活動にも参加していない人が増えている。



4

3. 条例の背景：地域力の低下を示唆するデータ

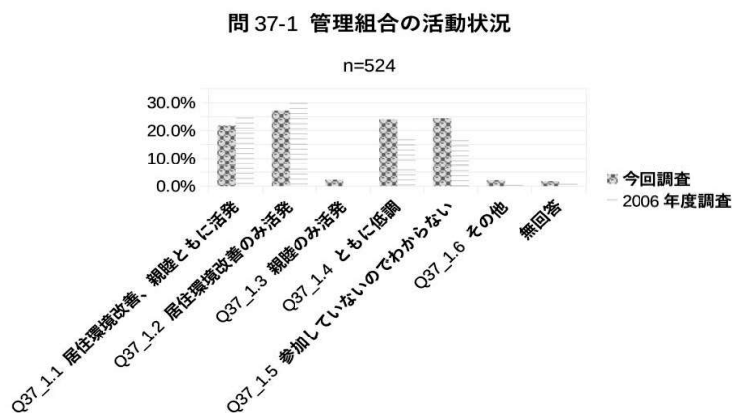
- 問23：今後の地域活動への参加意向では、どの分野についても参加したい人が減っており、参加したくない人が大きく増えている。



5

3. 条例の背景：地域力の低下を示唆するデータ

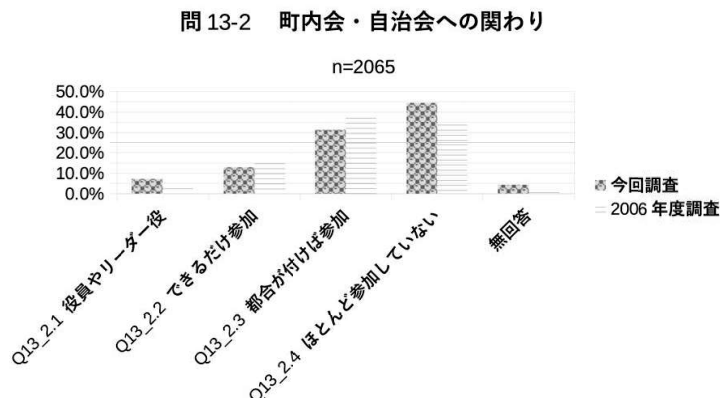
- 問37-1：分譲マンションの管理組合でも、自治的な活動をする意向が低下している。



6

3. 条例の背景：地域力の低下を示唆するデータ

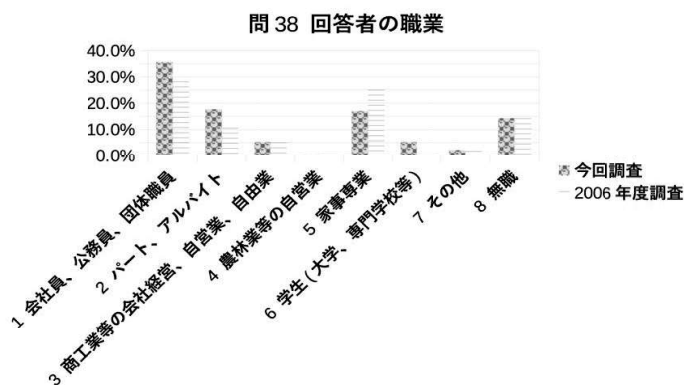
- 町会・自治会活動への関わりも消極的な人が増え、役員(会員は減ってもポストは一定数)の負担が増えていることが伺われる。
- 新宿区の同様の調査でも、役員の負担が重くなっていることが示されている。



7

4. 地域活動を難しくしている客観的要因： 活動できる人の減少

- 問38では、職業を尋ねている。
- 地域活動をボランティアで行う層として、専業主婦、リタイアした高齢者、自営業者があるが、この三つとも減少している。
- 地域活動への消極的な意識は客観的構造的要因のせいであり、工夫次第で克服できる。

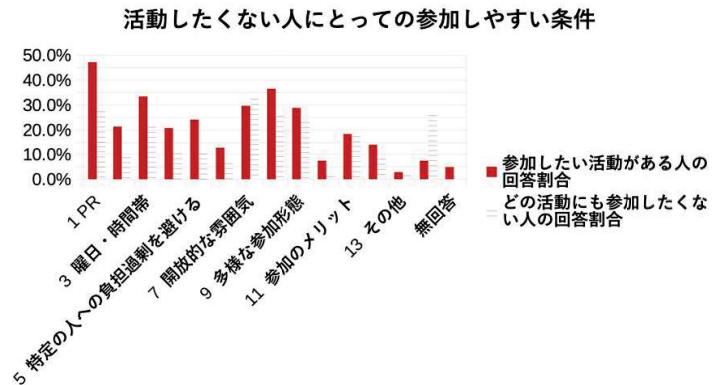


8

4.地域活動を難しくしている客観的要因： 活動に参加しやすいと思えない

よくよく分析してみると、活動していない人、活動したくないと言っている人でも、お気持ちやご意見がないわけでは決していない。

右のグラフは、「どんな活動にも参加したくない」と回答した人が、どんな条件があれば参加しやすいかとの設問に熱心に答えている様子を示している。

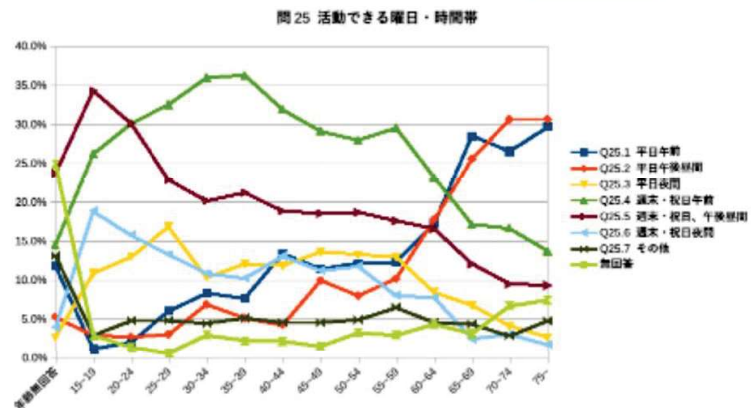


9

4.地域活動を難しくしている客観的要因： 活動できる曜日・時間帯が合わない

しかし、活動のお気持ちはあっても、特に現役世代の場合は、活動できる曜日、時間帯に制約があり、なんの前提もなしに好ましい時間帯を聞けば、右図のとおり、まったくのすれ違いになる。

活動の曜日・時間帯の工夫と配慮が必要である。



10

4. 地域活動を難しくしている客観的要因： 活動の専門性

日本都市センターの調査(2019年)によると、これから必要となる分野は、防災と地域福祉だが、活動に専門人材が必要な分野も、防災と地域福祉である。

新宿区の調査によると、高齢者支援や子育て支援は、町会・自治会の規模にかかわらずまだまだ取り組みがなされていない。つまりこれは大きなびしろである。まさに「ささえあい」の地域社会を作ることにより、町会・自治会も元気になれる。

こうした活動の専門性の部分を、行政・専門機関の支援や、地元の専門人材などに依拠して活動を組み立てていく。

		不要	確保済み	未確保
地域福祉	日常の見守り、高齢者のサポート等	35.3	17.9	44.2
	コミュニティ・ソーシャルワーカー、コミュニティ・ナースに関する取組み等	12.7	15.5	68.3
まちづくり	空き家・空き地、景観・緑化、エリアマネジメント等	20.0	10.6	64.7
	環境(清掃・美化、ゴミ・資源、環境保全等)	51.7	16.6	29.1
教育	学校教育(学習支援、コミュニティ・スクール等)	16.8	23.7	56.5
	生涯学習(地域の歴史、文化・スポーツ活動等)	18.8	29.7	48.9
地域公共交通(デマンド型交通、コミュニティバス等)		27.4	17.2	52.8
防災・危機管理(地域防災マップの作成、要援護者の避難支援、安否確認等)		16.2	20.0	61.2
コミュニティ・ビジネス(上記の区分に当てはまるものを除く)		27.2	3.4	56.9

11

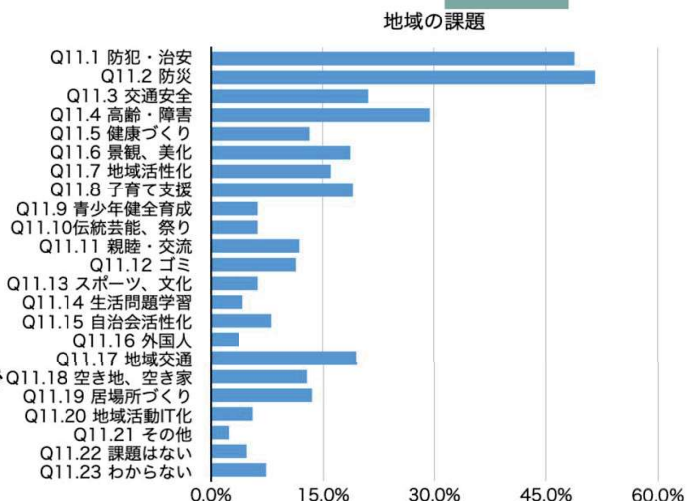
5. 地域のニーズに合わせた地域活動の展開を

地域活動のニーズが防災や地域福祉で強まっているのは、全国的傾向だが、町田市の様子も見ておこう。

防犯・防災や地域福祉的課題のほか、地域交通や居場所づくりへの関心が高いことが注目される。

これらの課題に、町会・自治会をはじめとした地域活動団体が、行政・専門機関の支援を受けて取り組めば、地域コミュニティへの信頼が増していくことが期待できる。

条例はそのための力強い後ろ盾である。



12

次世代へのタスキ

～地域連携で未来へつなぐ絆づくり～

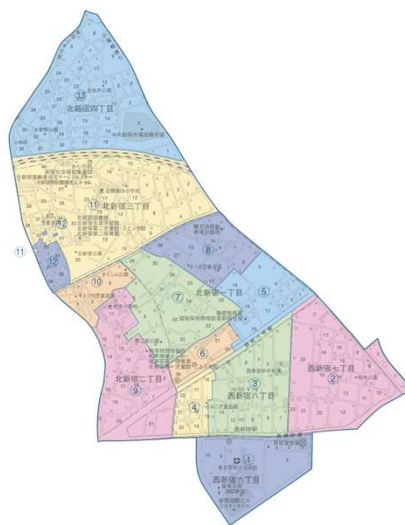
新宿区町会連合会 副会長
北新宿二丁目町会 会長 山田 和男

柏木地区の紹介

新宿区の西部に位置し、
南は青梅街道、東は小滝橋通り、
西は神田川に囲まれた柏木地区。

柏木地区町会連合会は、
柏木区内で活動する
13の町会からなる連合会です。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 西新宿六丁目町会 | 8 柏木三和会 |
| 2 西新宿七丁目町会 | 9 北新宿二丁目町会 |
| 3 西新宿八丁目町会 | 10 北新宿二丁目新和会 |
| 4 西新宿八丁目成子町会 | 11 北新宿三丁目町会 |
| 5 北新宿一丁目南町会 | 12 北新宿三丁目柏親会 |
| 6 北新宿一丁目仲町会 | 13 北新宿四丁目町会 |
| 7 北新宿蜀山町会 | |



地域連携で行う北新宿公園盆踊り大会

柏木地区で6町会が連携して行なっているのが、北新宿公園盆踊り大会です。

2025年は開催40回の節目を迎えます。

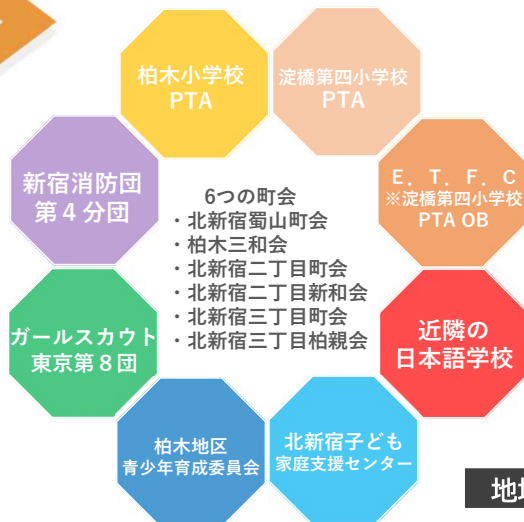
柏木地区の夏の風物詩として愛されており、各町会で模擬店を出店しています。

当日は多くの地域住民が集い、世代を超えて踊りの輪が広がる様子は大切に引き継がれていって欲しい光景のひとつです。



2

様々な地域団体等との協力・連携



北新宿公園盆踊り大会は、6つの町会のほか、様々な地域団体等と協力・連携しながら、運営しています。

地域団体等との連携イメージ

3

オープニングセレモニーでは



地域団体等との連携の事例

第39回の北新宿公園盆踊り大会では、いつも警備と怪我の手当てなどを担当してくださっている「新宿消防団第4分団」のみなさんがオープニングに登場し、自己紹介と活動のPRを行いました。

4

運営を支える地域団体



地域団体等との連携の事例

盆踊り大会当日は、自転車整理をはじめとした会場整備を近隣の日本語学校に通う外国人留学生に協力してもらっています。

また、会場整理の協力の合間には、盆踊り大会にお客様として参加してもらい、日本の夏の風物詩を楽しんでいただく機会を創出し、イベントを通じて多文化交流を図っています。

5

地域連携で 課題解決へアプローチ

課題解決へのアプローチ

どの町会・自治会でも課題として上がるのが、
町会員の高齢化と後継者不足です。

こうした課題を解決するためには、
以下のようなアプローチが重要では
ないかと考えています。

課題解決への3つのアプローチ



イベント開催で町会活動を P R



お祭りなどのイベントを開催すると地域子ども達やその保護者が来場してくれるケースが多く、新たな住民の方と顔見知りになる絶好の機会となります。

イベントをきっかけとして町会の存在や活動を知ってもらい、町会加入につながるのがとても理想的な流れかと思います。

一人でも多くの地域の方と顔見知りになることが、町会加入への第一歩と信じて定期的にイベントを開催することも重要な手段の一つと考えます。

7

イベント開催で町会活動を P R

北新宿公園盆踊り大会では各町会が模擬店を出店しています。

町会が出店する模擬店では、「チヂミ」「焼きそば」「綿あめ」「くじ引き」など各町会ごとに工夫を凝らしたメニューを提供しています。

町会員はお揃いのTシャツを着ており、現場での一体感と町会ごとのカラーで個性を感じるとともに、アピールにもつながっています。



8

町会同士の情報共有

北新宿公園盆踊り大会のように複数の町会が連携して行なっているイベント活動のほかに、町会が独自で行なっている行事なども存在します。

現在は他の町会の活動を知る機会が
少ないですがそれぞれの町会が年間を通して

- ・どんな活動を行なっているか
- ・どういった取り組みが効果的だったか

などの情報共有を行うことで、
より地域活動が活性化できると思います。



9

次世代へつなぐために



北新宿公園盆踊り大会では、町会だけではなく、柏木小学校や淀橋第四小学校PTA、PTAのOB（E.T.F.C）といった団体も出店しており、次代を担う方々との関わりがあります。

以前はPTA役員を経験した方が町会に加入し、その後、町会役員になるという流れも少なくありませんでした。

地域活動の新たな担い手獲得のためにもPTAの皆さんとの関わりは非常に大切であると考えています。

学校やPTAの活動に積極的に関わることで、町会活動への理解が広がる可能性もあります。

10

町会活動で大切なことは



楽しいが一番大事



町会活動を行う上で大切だと思うのは
「当人達が楽しいと思ってやること」だと思います。

どんなイベントでも、企画した当人たちが
楽しくないと、催し自体が盛り上がりませ
んし、次に繋がりません。

うまくいったイベントを振り返ると
企画段階から盛り上がっていたことが多い
と感じます。とにかく楽しくやることが
大切だと思います。

未来へ向けた町会の在り方

今回の条例制定をきっかけに
生活様式の変化や価値観の多様化等により
町会を取り巻く環境が変化しているということ
を改めて認識しています。

これからの町会運営は現状に満足することなく、
自分たちが変わっていこう！という強い意識を
持って、新たな取り組みに挑戦していくことが
必要だと感じます。



12

次世代へつなぐタスキ



町会の恒例行事では運営スタッフが固定化
しやすいため、新たなメンバーが入った時に
「教えるより自分でやった方が早い」
と感ずることや、実際にそういった声を
耳にすることがあります。

新たなメンバーが参加した時には、
ある程度の活動を次世代に任せることも
町会活性化の鍵だと感じます。

今までのやり方と違っていても、
そこはグッと堪えて、見守ることも大切です。

13



ご清聴
ありがとうございました

シン・共助のカタチ

～地域一体で取り組む未来に繋げる防災力向上～

市谷台町町会 会長 御所窪 和子

目 次

1. 町会の概要
2. 継続的な「まちかど防災訓練」による防災行動力の向上
3. 地域一体で「防災フラッグ」を活用した共助体制の構築
4. 年末夜間警戒及びSNSを活用した若年層の防災
5. 防災マップを活用した防災情報の周知
6. まとめ

1. 町会概要

■町会の概要

- ・世帯数：1,030、住民：1,498人
- ・会員入会率：56%
- ・町会の真ん中に片側2車線の台町坂（放射6号線）が通り、商店街のある街から共同住宅が年々増加する街へ
- ・台町坂の坂上と坂下で高低差があり山の手の特徴である崖がある
- ・町会の中心に青峰観音と大銀杏
- ・掲示板は9つ



1. 町会概要

■令和6年度の計画目標

- ・あいさつがあふれる町
- ・誰もが活躍できる町
- ・楽しく活動できる町
- ・町会役員以外に、気軽に手伝いができるサポーターを募って、出来る事を楽しくお手伝い

■町会内活動団体

- ・高齢者クラブ銀杏会
- ・多世代交流サロンびすけっと



2. 継続的な「まちかど防災訓練」による防災行動力の向上

- 毎年11月～12月上旬に多くの人々が往来する町会のメイン通りを通行止めにして開催している「まちかど防災訓練」を実施。
- スタンドパイプ訓練、起震車体験、防災展示、AED訓練、炊き出し訓練、その他体験などを実施
- 多くの参加者が気軽に防災を学ぶ機会、例年約150名が参加



5

2. 継続的な「まちかど防災訓練」による防災行動力の向上

■スタンドパイプ

- 平成25年にスタンドパイプを保有してから10年間、まちかど防災訓練を実施
- 南北に長く、高低差のある町会を考慮し、坂上に1台、坂下に1台の計2台を配置。
- 更に1台を自主購入



6

2. 継続的な「まちかど防災訓練」による防災行動力の向上

■AED訓練

- ・ 訓練では、会場から一番近いAED設置場所（銭湯）へAEDを取りに行き、消防団や町内の災害時支援ボランティア登録者の指導のもと、応急救護活動の訓練を実施
- ・ 避難所開設訓練などでも、積極的に町会メンバーが参加し、地域で連携して有事の行動を意識した訓練を実施



7

2. 継続的な「まちかど防災訓練」による防災行動力の向上

車両通行止

令和6年
12月1日(日) 12:00~17:00

市谷台町会「役に立つ防災訓練」開催につき
車両通行止めになります。

新宿区道路課 6 新米土許可第1048号
牛込警察署長「道路使用許可証」第5927号
市谷台町会会長 御開演 090-4226-1339

令和6年度 市谷台町会
役に立つ防災訓練

12月1日(日)
午後13:30~15:30
台町イベントストリート
(市谷台町19番地と20番地間の区道)

小園決行ですが
足置車は中止になります

体験したい方に
記入部を差し上げます！

「東京都水道局」「新宿区社会福祉協議会」「若松町高齢者総合相談センター」もコーナー開設
起震車体験・煙体験・スタンバイ訓練・アルファ化米炊出し・防災マップ鑑賞

【問い合わせ】市谷台町会 会長 御開演 090-4226-1339
訓練担当 橋本真司 090-2566-2679

当日のお子連れ募集しています。上記訓練担当にご連絡ください。

令和6年度 市谷台町会
役に立つ防災訓練

12月1日(日) 午後13:30~15:30
台町イベントストリート
(市谷台町19・20番地間の区道)

小園決行ですが
足置車は中止になります

非常用給水袋、背負い体験！ 東京都水道局コーナー 体験したい方に記入部を差し上げます！ 災害時の水道の不安を解消に直接関与	震度5~7を体感しよう！ 起震車体験 震度を体感！ 地震発生後どんな行動をとればいいのか
わが町を守ろう！ スタンバイ訓練 鎮定から数分までやってみたいというとき、 復元するようくり返し訓練しよう	火災時の煙を再現！ 煙体験 煙の立ち上りや避難方法を体験しよう！
目福からのさきえあいを考えよう！ 新宿区社会福祉協議会コーナー これまでの防災地味な防災から災害に 備えよう	アルファ化米100人分作り！ 炊き出し訓練 防災備蓄に欠かせないアルファ化米 お湯沸かしから配食までやってみよう！
気がかりな事、気軽に相談！ 若松町高齢者総合相談センターコーナー 車椅子体験や災害時に役立つ福祉用具も展示！	「防災・安心マップ」へ実付きを 書き込もう！ 「防災・安心マップ」で防災意識を 高めよう！

※「無事ですフラッグ」募出し・建設訓練

各家庭に1枚の「無事ですフラッグ」(縦横約A4用紙1枚)の形に
作成し、お家に貼ってください。お家に貼ったフラッグに
「無事ですフラッグ」を貼って、お家に貼ったフラッグに
お家の家族の顔を貼ってください。お家に貼ったフラッグに
お家の家族の顔を貼ってください。

ご家族、お隣り、ご近所へお声を掛け合いご参加ください。
問合せ：市谷台町会 会長 御開演 090-4226-1339

いつもの通りを通行止めにし、様々な訓練を実施、、、

8

3. 地域一体で「防災フラッグ」を活用した共助体制の構築

■だいまちデー

- 毎月1回町内一斉の清掃活動を実施、毎回15～20名が参加
- 台町坂の両側を中心に清掃
- 参加できない方は自宅の周りを清掃
- 就学前のお子さんから、100歳を超える大先輩まで、多世代の交流の機会に



9

3. 地域一体で「防災フラッグ」を活用した共助体制の構築



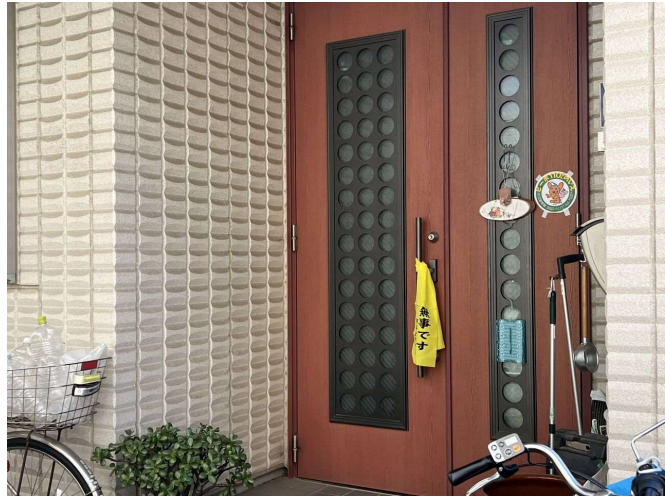
日頃から多世代で話ができるきっかけに、、、
地域の子どもをみんなで育てる機運づくりに、、、

10

3. 地域一体で「防災フラッグ」を活用した共助体制の構築

■無事ですフラッグ

- 「無事です」と記した、自身の安否を知らせる「防災フラッグ」を作成
- 町会員だけでなく希望するすべての住民に配布
- 月に一回の「だいまちデー（一斉清掃）」で繰り返し掲示する訓練を実施
- 多くの人にフラッグが浸透し、共助体制の構築へ



1

4. 年末夜間警戒及びSNSを活用した若年層の防災

■年末夜間警戒

- 年末の夜警は、町会役員だけでなく、町会全体に声をかけて実施
- 平成24年からクリスマス前後で「子ども夜警の日」として、三世代が合同で、火の用心をよびかけ
- サンタクロースやトナカイなどに仮装した子どもたちが、町内を回る際、町会員からお菓子のご褒美



12

4. 年末夜間警戒及びブログやSNSを活用した若年層の防災

■ブログやSNSの活用

- 若い世代の町会活動への理解を深めるため、町会のブログを立ち上げ、活動状況やイベント案内などを広く発信
- 役員やサポーターの連絡・共有などにはLINEを活用し、従来の掲示板や回覧板の活用と併せ、世代ごとに異なる情報ツールに対応



←町会ブログのアクセスは
こちらから

13

5. 防災マップを活用した防災情報の周知

■マップづくり

- 防災を町会が一つにまとめるテーマの一つとして位置づけ、積極的に活動
- 区主催の防災マップ作成講習会に参加、実際に街歩きをしたうえで、町会独自の防災マップを作成し、毎月の清掃活動時や年に1回の更新時に最新の情報を反映



14

6. まとめ

- 自助・共助・公助に加え「近助」をキーワードに毎月のだいまちデーでの清掃や「無事ですフラッグ」の掲出、季節の交通安全の旗振りや、各種イベントを通じ、「あいさつがあふれる町、誰もが活躍できる町、楽しく活動できる町」を実現



15